

こくろう秋田

国労への信頼を 勝ち取り組織拡大へ



国労秋田地区は2月27日、秋田市において「第123回国労拡大地方委員会」を開催した。

書面での参加も含め12名の委員、役員が集まりコロナ対策をしっかりとる中で開催。

高橋毅副委員長から開会にあたり「組合運動は、パブから始まったと言われている。コロナ禍でなかなか膝を交えて話し合う状況ではないが、あきらめずに少しでも前に進めるように今委員会を真摯な討論で成功させて欲しい」との話がされた。



高橋議長

総合車両センターの高橋誠委員を議長に選出



佐藤浩一 地本委員長

「総合車両センターの春闘の平均要求額は32115円となり、本部の6000円とはかけ離れているが、しっかりと22春闘を現場で支えていきたい」との挨拶があった。

佐藤浩一 地本委員長からは「コロナの感染拡大により来賓を招待せず開催、感染対策をしっかりとして委員会を行いたい。ロシアがウクライナに軍事侵攻をした。国労は一貫して戦争反対をしてきた。今委員会名で戦争反対の宣言を出したい。平成採用の仲間は、国労組合員1名の職場で職場代表者選挙に立候補し奮闘し、組織拡大の運動を地道に進めている。また業務部長として会社に対峙し奮闘している仲間もいる。これら



国鉄労働組合
秋田地方本部
秋田市中通
7-2-21
☎018-832-3775
発行責任者
佐藤浩一
編集責任者
編集部

の闘いに学び、国鉄世代も組織拡大に奮闘しなくてはならない。統括センターがまもなく発足する。疑問点、問題点を職場で指摘が必要。

会社の施策は「柔軟な働き方」と言うより「会社にとって柔軟に働かせ方」が目的。東能代駅では無人のニューデイズが稼働。開店閉店、商品の品出しも東能代駅社員が担当している。これは労働条件の変更で団体交渉事項ではないか、支社に確認中。私たちに組織の展望を切り拓く条件がある。国労への信頼を勝ち取る必要がある。」

宇佐美書記長が「当面する闘争方針」を提案後、質疑応答。

委員の発言では「ワンマンカー増加により運転士の仕事量が増加。大雪で列車が運休になり帰る列車がないので宿泊した。ダイヤ改正後東能代統括センターでは企画の仕事が増える。運転士車掌が駅の見習い。2月に東能代駅に行ったが、ニューデイズの社員は、秋田まで通うか辞めるか思案中だと困っていた。今年は特に大館、東能代間の運転見合わせが多い。判断の甘さがあり見合わせ時間がどんどん延びる。指令から鷹ノ巣駅へ指示

あり、業務委託されているので偽装請負になるのではないかな？雪のため、終日運休で出勤できない場合に年休となっているがどうなのか？特急つがるが運休なのに、秋田発の下りしか発売保留がかからない、上りは盛岡指令対応とのこと。指令間の連携を密にして欲しい。」（北奥羽連合）

「分会大会を開催し、工務分会と統合。寄せ集めの分会なので話し合う機会が必要。輸送が秋田駅に、SEも秋田駅に来たが、冬の異常時でアップアップしている。ポイント不転換は輸送で行っていたものが、駅に要請が来る。コロナ禍でお客さまが少なくなってきた、それに合わせて要員削減となっている。新幹線が運休になっても長蛇の列にはならない。悲しい現状。今年の雪質は不転換だけでなく抱き込んで列車が立ち往生することが多発。」（秋田連合）

「職場で若い女性社員が退職。今のJRの職場に不信感。多くの社員がこのままで良いとは思っていない、国労はもっと社員の声を聞き、労働組合の存在を訴え組織拡大に結び付けたい。」（横手連合）



宇佐美久蔵書記長

◆書記長集約『JRでの労働組合加入率が2割の現状、国労が労働組合運動を、日本の成長を支えてきた。国鉄分割民営化は、国労、総評つぶしの政府の策動。闘い方のノウハウを生かし、企業内労働運動から地域、国民を巻き込んで、国労運動が見えるように周りに訴える運動が求められている。また労働運動の原点に立ち返ることも必要。自分を支えてくれている家族を大事に運動を進めていこう。国労運動に自覚と自信を持ち奮闘しよう。』

「当面する闘争方針」を賛成多数で採択後、委員会宣言を承認。



最後は「団結ガンバロー」を佐藤委員長の声で力強く行いました。

**戦争反対！ロシアは
ウクライナ侵攻を止める！**